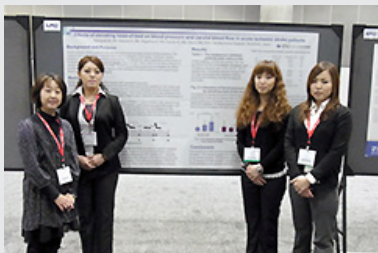


国際脳卒中学会 in U.S.A



ベッド角度 30 度の根拠は？ 臨床データがないなら自分たちで研究。

脳梗塞患者さんの治療には 30 度のベッド角度が推奨されているのですが、根拠となる臨床データがなかったんですね。そこで脳の血流量が血圧に影響するかどうか ICU の看護師 3 名で実験を行うことにしました。主治医と本人の了解のもと脳梗塞患者さんを対象に 30 度・45 度・70 度でのデータを計測。その結果、角度が高いほど血流変動が大きく、起立性低血圧が見られました。基礎疾患に糖尿病や高血圧症があれば特に下がりやすく、リスクが高いほど念入りのバイタルチェックが必要なことも分かり、30 度が妥当であることを実証するこのデータを得られたのです。予想通りの結果が出せたこと、それが一番の成果でした。



論文の成果をまとめたポスターの前で。特に優秀なポスターとして選ばれ、この前でスピーチとディスカッションが行われました。

狭き門と言われる ASA で論文が通過！ 学会発表のためにアメリカのロスへ飛ぶ。

まさか提出した演題が ISC(国際脳卒中学会)で通過するとは！「データ収集の大変さを認めてもらえた！」と思ううれしさで一杯になりました。以前の勤務先でも国際学会で発表だなんて聞いたことがなかったので、研究や論文提出を勧めていただいたことに感謝し、あらためてすごいことだと感激しました。そして 2011 年 2 月、国際脳卒中学会でポスター発表を行うためにアメリカへ。臨床に直結した研究で、しかも注目分野だったこともあり反響の大きさにびっくり。今後の研究につながるアドバイスやコラボの提案もいただき、あっという間でしたが刺激的で有意義な時間を過ごせました。悔しかったのは英語が話せず 2 分間のスピーチが自分たちでできなかったこと。ぜひ次は英語を勉強して再び挑戦したいです。



社会医療法人 祥和会
脳神経センター大田記念病院

ICU

金行 美佳

脳卒中看護にはミラクルがある！

京都で勤務していた総合病院で脳疾患の患者さんと接し、セオリー通りにはならない脳の未知数さに興味をひかれる。当院を見学し「一緒に頑張れる人たちがいるから」と縁のない福山へ。